

# ソニー幼児教育支援プログラム「科学する心を育てる」

## Gathering～みんなで集おう～@岐阜市立岐阜東幼稚園 開催レポート

令和5年10月14日（土）ソニー幼児教育支援プログラム2022年度保育実践論文・優秀園の岐阜市立岐阜東幼稚園・公益財団法人ソニー教育財団主催による「Gathering～みんなで集おう～@岐阜市立岐阜東幼稚園」を開催しました。岐阜県を始め、全国各地から公立や私立の幼稚園・保育所（園）・認定こども園、小学校等教育関係者132名の参加がありました。以下に岐阜市立岐阜東幼稚園による開催レポートを掲載します。

### 【研究会概要】

1. 日時：令和5年10月14日（土）9：30～16：10
2. 会場：岐阜市立岐阜東幼稚園
3. 主題：「遊んで、遊んで、とことん遊び込む！！～心が動く瞬間（とき）に寄り添う環境構成や教師の援助を考える～」
4. プログラム

### 【公開保育 9：30～10：50】

#### 3歳児

乗り物に興味をもっている3歳児は、コンビカーやスクーターに乗り、園庭を走り回っていた。途中にある坂道でスピード感を味わったり、トンネルをくぐって景色の違いを楽しんだりした。また、子どもたちが作った信号や踏切があることによって、遮断機を下ろす子や信号の色を変える子などが入れ替わりながら行い、友達の声や動きにタイミングを合わせたり、顔を見合わせながらやりとりを楽しんだりしていた。



「ふみきりが上がります。通っていますよ。」と友達の動きに合わせて操作しています。

#### 4歳児

小集団で遊ぶことが楽しくなった4歳児は、引越し鬼をしたり、転がしドッジをしたりしていた。

また、砂場では塩ビ管を立ててそこに水を流し込んでいた。水が塩ビ管に溜まったり、一気に抜くことで水が溢れ出したりする現象を予測しながら楽しんでいた。砂場で個々に遊んでいる中で、友達の、「どうなるだろう!？」という声に数人の子どもたちが水の行方を期待しながら遊び、それが繰り返されていた。



「水を入れてみるよ？」この後起きる現象に期待感もっています。

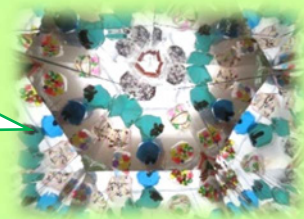
#### 5歳児

「鏡絵本」をきっかけに鏡に興味をもった5歳児は、繰り返し遊ぶ中で巨大万華鏡を作りたいという願いをもち、様々な素材を使ったり、試行錯誤したり、友達と対話したりしながら創ってきた。この日は、フープで作った回転式の万華鏡の中身が下に溜まってしまい、見えなかった。仕切りを作ることで、様々な素材を入れることを考えた。それによって、仕切りの中の材料が動くことで見える形が変わる面白さや巨大万華鏡の中で模様動く様子をタブレットで撮影したりした。思い描いた見え方に子どもたちの心は動き、振り返りの時間には友達に、「材料で見え方が変わるんだよ、ほら見て!」と思いのままに言葉にしていた。潜望鏡を作っていた子どもたちも、「きれい!」と心が動き、「私たちもやってみたいね。」と言っていた。



「私が回すから、動画を撮ってね!」役割分担しながら、願いに向かって遊んでいます。

いろいろな素材を入れた万華鏡は、こんな風に見えたのです!!



【開会式・保育の振り返り・研究発表  
12:30~13:20】

研究発表では、本園で行っている、「科学する心」が育まれる4つの段階を紹介し、シャボン玉の事例や虹色ジュースの事例を通して、子どもたちの探究心や創造性の芽生えにつながる育ちを発表した。

また、心が動く瞬間に寄り添う環境構成や教師の援助について考察し、研究の成果として、以下の3点について紹介した。

- ・心を動かした事物や現象に対する問いや願いが生まれるような工夫
- ・子どもと同じ目線になり、心を動かしながら、双方に、対話が生まれ、遊びを創り出す営み
- ・周囲から自分が大切にされていることを実感し、多様な見方や考え方に触れ、互いを認め合う温かな人間関係

【グループセッション  
13:20~14:20】

グループセッションでは、テーマを、「遊びと科学する心の重なりやつながりを語り合おう!」とし、6~8人のグループで行った。その中で出た意見を抜粋する。

- ・遊びの過程で思い巡らすこと、純粋に楽しいことが大事、遊び込んでいないいろいろな発想は出てこない。
- ・子どもの遊びを残せる環境が大事である。
- ・子どもの発想が豊かになるよう、保育室の物の量や既成のおもちゃの有無を考えていきたい。
- ・タブレットを活用するなど教育の見える化が子どもの探究には大事である。



【記念講演 14:40~16:00】

講師：東京大学 名誉教授 汐見 稔幸先生

◎科学と結果知、プロセス知

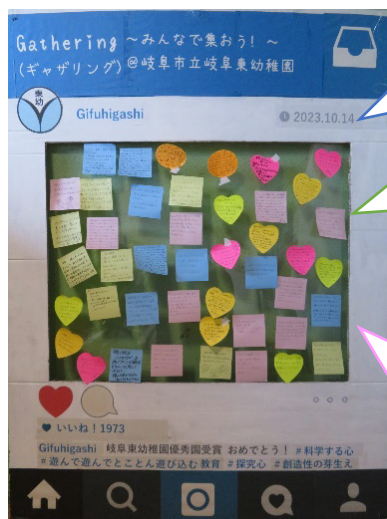
- ・科学は多様な方法知の一つにすぎない。絶対知ではない。
- ・科学と遊びはどう違うのか。水を砂場に流すという遊びは、広義的な遊びであり、意識的に決まった方法で試すということは狭義的な科学である。しかし、それは遊びとも言える。
- ・結果を出すためのプロセスが大事？結果を出すことが大事？どうしたらできるのかとプロセスで得られた知恵が残る。やりたいと思ったことを子どもに任せて決めたことを見える化していくことで手順が分かる。自分で決めていくプロセスが残っていく。何が科学する心につながっていくのか議論して、明確にしていくことが大切である。



◎アクティブラーニングとパッシブラーニング

- ・内的なアイデアなど積極的に外に出すアクティブに対して、外からの刺激をじっくりと受けるパッシブ。パッシブに目を向けることが重要である。パッシブラーニングとは、世界と他者から深く聴く（感じる）姿勢が大切である。簡単にわかってほしい、わからないことに耐える、子どもに声を掛けるのも待つ。そして、生命が求めているものを感じ取る。その内容に応答する。
- ・世界の事象への驚き、不思議と感じる感覚、その理由を知りたいという欲求、自然の摂理には理由がある。自然はつながり合って、支え合って全体があるを「科学する心」に。

参観者からいただいた『いいね!』



「こうやってやるんだよ。みてみて。」と自分の遊びを自分で語る子どもたちが素敵。

先生の楽しそうな反応とリアクションが素敵。誰よりも楽しんでいることがよかったです!

元気がない子に、「ブランコに乗ったら元気になるよ。」と話しかけ、どうしたら友達が元気になるのか考える姿が素敵。その後、一緒に遊んでいてほっこりした。

【参加した皆様からの感想】

- ・子ども一人一人の思いやペースを大切にしていると感じました。つぶやきを聞き取り、肯定的に受け止めて返されている姿もすてきなと思います。
- ・科学する心とは、単に心が動いたことに探究していただくだけではなく、探究するプロセスで得たものや、人や地域、周囲とのつながりを感じる力であるように思いました。
- ・理科学的な視点、素材のみならず、ごっこ遊びや運動遊びなどでも、挑戦したり、より遊びを面白くしようとしたりする姿などの中に科学する心があって、しっかり見とっていきたいなあと考えています。
- ・汐見先生の講話を聞き、なんて狭い世界で生きているんだろうと考えさせられました。深く聴く態度、改めて解釈し、科学する心について考え、子どもと実践し、プロセスを大切にしていきたいと思いました。